

令和6年度 第1回千葉県公立高等学校協議会 開催結果

- 1 日 時 令和6年7月8日（月） 午後1時から午後1時57分まで
- 2 場 所 ホテルプラザ菜の花3階「菜の花」（千葉市中央区長洲1-8-1）
- 3 出席委員（委員：総数13名中12名出席）  
草刈廣直委員、風戸正委員、佐久間勝彦委員、川並芳純委員、  
神子純一委員、矢部明委員、鈴木宏子委員（会長）、寺尾里代委員（副会長）、  
染谷篤委員、藤ヶ崎功委員、高梨みちえ委員、富塚昌子委員
- 4 事務局 知事部局 総務部学事課  
教育庁 企画管理部教育政策課  
教育振興部学習指導課、教職員課  
千葉県私立中学高等学校協会
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議次第  
開 会  
議 題  
（1）令和6年度公立高等学校入試結果報告について  
（2）令和7年度公立高等学校生徒募集計画（案）について  
（3）私立高等学校の臨時定員増について  
（4）令和7年度入学者選抜等に関する報告事項について  
閉 会

7 議事概要

- （1）令和6年度公立高等学校入試結果報告について

○事務局説明

資料「令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果及び入学者数について」及び「令和6年度私立高等学校入学者選抜結果」により事務局から説明。

（説明概要）

公立高校	全日制	定員	30,920名
		入学者	29,009名
	定時制	定員	1,400名
		入学者	826名

私立高校	全日制	募集定員	15,919名
		入学者	16,390名
	通信制	募集定員	5,121名
		入学者	3,569名

※公立高校全日制については、併設型中学校、附属中学校からの進学者数を含む。

○意見・質疑応答  
特になし。

(2) 令和7年度公立高等学校生徒募集計画(案)について

○事務局説明

資料「高等学校生徒募集に係る基本方針」、「県内中学校卒業生の進学状況の推移」、「県内全日制高等学校第1学年在籍生徒数と募集定員の推移」及び「令和6年度公立高等学校生徒募集計画(案)」により事務局から説明。

○委員提出資料

本議題の協議にあたって事務局準備資料の他に佐久間委員から別途資料「公立高校生徒募集計画を策定するにあたっての「算式」に追加すべき数値」の提出があった。

(説明概要)

- ・令和7年3月中卒者数を52,320人、うち進学者数を51,692人と推計する。
- ・公立高校募集定員は、中卒生徒数の推移、過去の実績等を勘案し、30,040人とする。  
(併設型中学校、附属中学校等からの当該高校への入学者を含む。)
- ・公立高校の令和6年度入試では1,881人、56校92学科で定員未充足という状況であった。未充足学科のうち半数以上は職業系専門学科が占めており、産業人材育成の観点から、未充足学科分を翌年度に即学級減という対応は難しい。来年度策定する県立高校改革推進プラン第2次実施プログラムでは統合を含めた再編案を検討し、募集学級数の在り方について精査していきたい。
- ・私立高校募集定員は、各設置者が生徒収容状況、県内の中学校卒業生数等を考慮し、学則定員の範囲内で定めた結果に基づき、15,921人とする。

○意見・質疑応答

(佐久間委員)

今回提出した資料のとおり、公立高校の入学者が公私協で決定した募集人員を1,900人程度充足できていない状況が、複数年度にわたって続いている。この未充足定員をいかに減らしていくかが求められている。過去の実績を勘案して募集人員を設定しているとのことだが、同程度の未充足が次年度も発生するように思えてならない。公立高校の未充足は近年では郡部に限った話ではなく、船橋、市川、浦安、鎌ヶ谷といった都市部

でも見られている。過去の人口増加期に船橋周辺は学校を多く作ったが、15歳人口が減少期にある現在ではニーズを超える学校数になっている。都市部の普通科高校についても転換を図る必要がある。

今後の県立高校改革推進プラン第2次実施プログラムで検討していくとのことであったが、本気で取り組まなければ毎年多くの公立高校が2次募集を行い、生徒を募集できていないということが県民の目に映る。中学校の関係者から、公立高校第1志望であった生徒がオープンキャンパスで施設設備を見て、私立に志望を変えることが増えていると聞く。公立は校数、定員を減らし設備を充実させるといった取り組みを行うべきではないか。

(冨塚委員)

佐久間委員の御指摘のとおり、公立高校の募集に対して、1,900人近く入学者が不足しているのは事実である。しかし、学科別で見れば工業や農業など職業系の専門学科での未充足が約半分となっている。専門学科は1学科1学級という形が多く、学級を減らすとその学科そのものがなくなることになる。地域産業の担い手を将来にわたって育成輩出することは県立高校の重要な役割であるため、容易に学科を削減できるものではない。

また普通科で未充足となっている学校は、御指摘のとおり、郡部に加え、都市部でも見られるが、すでに適正規模ぎりぎりの学級数になっている小規模校が多く、多様な授業選択を確保することも必要であるため、今すぐの学級減が困難な学校も多い。

一方で少子化の中、抜本的な改革を進める必要があることも認識している。令和4年3月に策定した県立高校改革推進プランの中で、今後の人口推計等を踏まえ、策定後10年間で10組程度の再編等を掲げている。再編統合にあたっては、適正規模、適正配置の観点、地元自治体や地域の方々の意見をふまえ、再編、統合後の学校の姿をしっかりと皆さんと共有できるよう丁寧に進める必要があることから現在、地域ごと、また学校ごとの意見交換を進めている。今少し時間はかかるが、募集定員と入学者数の乖離を減らしていく大きな手段になると考えている。

少子化が進行する中で、将来の千葉県を支える子供たちを育てていくためには、公立高校と、それぞれの建学の精神に基づく教育を行ってくださっている私立の学校とが協調しつつ、それぞれの役割を果たしていかなければならない。県立高校においては、今後の再編等を進める中で、時代に合った、また生徒のニーズを踏まえた、ハードソフト両面での学校づくりに努めていくので、私立高校においては学則定員の遵守に努めていただき、より充実した、教育環境の提供に御尽力をいただきたい。

#### ○協議結果

原案のとおり承認された。

(3) 私立高等学校の臨時定員増について

○事務局説明

資料「私立高等学校の臨時定員増について」により事務局から説明。

(説明概要)

- ・県では、第3学区の私立高等学校について、中学校卒業者が同地区で増加する見込みであったことから、各校が学則で定める定員に対し、平成30年度から令和7年度まで(8か年)の期限付きで定員を増加させる、「臨時定員増」を認可した。
- ・令和8年度以降の中卒者数の推計は、県全体としては減少傾向である一方、第3学区のみは横ばい傾向であることから、引き続き同規模(=169人)を限度に令和8年度から令和13年度入学生まで臨時定員増を認めることとする。

○意見・質疑応答

特になし。

○協議結果

原案のとおり承認された。

(4) 令和7年度入学者選抜等に関する報告事項について

○事務局説明

資料「令和7年度千葉県県立高等学校入学者選抜の日程」及び「令和7年度千葉県私立高等学校生徒募集に関する申し合わせ事項」により事務局から説明。

(説明概要)

県立高校 (一般入学者選抜)	本検査	令和7年2月18日(火曜日) 令和7年2月19日(水曜日)
	追検査	令和7年2月27日(木曜日)
	入学許可 候補者発表	令和7年3月4日(火曜日)
私立高校	前期選抜試験 実施の始期	令和7年1月17日(金曜日)以降
	後期選抜試験 実施の始期	令和7年2月15日(土曜日)以降

○意見・質疑応答

特になし。